

最近、県外や海外からも注目される木製二輪玩具を製品化し注目を集めているが、新製品開発までのいきさつは。

「当社の早川社長から、新事業として県産材を活用して斬新な製品づくりをしたいとの相談を受け、県外から秋田に外貨が落ちるよう高付加価値の製品を開発し、全国に発信したい」との思いで、まず県秋田スギ振興課に相談に行った。そこで高和製作所（秋田市）を紹介してもらい同社に協力を仰いだ。また実際に製品化するに当り、北日本オード工業（井川町）に協力をいただいた。その中で生まれたのが「曲げ木製二輪玩具」。ヨーロッパのキックバイクにヒントを得て、秋田県の伝統工芸である曲げ木の

ワークス・ギルド・ジャパン(株)
(秋田市)

デザイナー 大野 英憲さん



技術を生かし、家具職人が一つ一つ丁寧に製作した秋田県産の国産品。すべてのパーツが湾曲している、ほとんど機械を使

昨年7月で8月から販売を始めた。昨年9月にはドイツで行われたユーロバイクショーに出展し「美しい」と評価をいただいた。先月は環境・エネルギーをテーマにした世界の異業種交流の祭典「メッセナゴヤ2010」にも出展したところ。今月24日からは東京ビックサイトで行われるI D F T / インテリア・ライフスタイル・リビングにも出展する予定。現在、県内の自転車店のほか、県

「例えば、子どもたちの「木育」という視点から、遊びを楽しむながら五感を刺激する製品として木製人力車を製品化した。この製品を使って遊ぶことで思いやりや相互理解も学ぶこともできる。今後、この製品を進化させて木製車椅子の製品化もめざしたい。道具として機能を求めるだけの玩具ではなく、子どもたちを道具から開放し、心の豊かさを求める玩具を今後にも考えていきたい。ま

のコミュニケーション、想像力、発想力を育むパズルで、無限の組み合わせが可能な玩具。平面なのに立体的に見えるデザインとなつている。「あきたエコ&リサイクルフェスティバル」にも登場し話題となった。

抱負は。

「曲げ木製二輪玩具」を製品化
ドイツにも出展、世界を視野に
えない手作業による製品で、もちろん国内初。製品化できるまでは試作を繰り返し約一年半くらいかかった。完成したのは
外では名古屋、静岡、東京、横浜、大阪で販売されている。
続々と新製品の開発が進んでいるが、
た、秋田の資源である杉を活用した知育玩具「MOPA（モパ）」を開発製品化した。これは秋田スギの温もりと子どもたち

「子どもたちに木に触れ、木を関してもらおう」とで自然の恵みに感謝する気持ちを育み、木や森に対する意識を変えてもらおうと、企業や団体、個人が集まり9月から「秋田木育プロジェクト」をスタートさせた。すでに各地のイベントにも参加し活動をしているところ。今後はこの輪を広げていくとともに、秋田から全国、そして世界に向けて新製品を発信していきたい。

ビジネスナウ トツブに聞く